



人形淨瑠璃文樂「桂川連理柵」【協力：人形淨瑠璃文樂座 写真提供：国立文楽劇場】

第20号が桂川を特集していたので京都の河川ゆかりの芝居（淨瑠璃や歌舞伎）を探すなら、『桂川連理樋』<sup>】</sup>近頃原版引などが思い浮かぶ。安永5年（1776）大坂北堀江・市の側芝居で初演された『桂川連理樋』は、通称「お半長

劇場には、戯曲としてのドラマを見せる「ドロメノン」と、劇場そのものを見せて娯しませる「テアトロン」という二つの機能がある。今まで述べてきたような回り舞台やセリのような劇場の面白さはアートロントでの機能に因るのだが、もちろん芝居には人間ドラマとしての魅力が大きいことはいうまでもない。

「水が詰まるもの」

第20号が桂川を特集していたので京都の河川ゆかりの芝居（淨瑠璃や歌舞伎）を探すなら、永5年（1776）頃河原達引などが思い浮かぶ。安永5年（1776）大坂北堀江・市の御芝居で初演された『桂川連理樞』は、通称「お半長

いう筋立てに展開するのだが、宝  
11年（1761）に帶屋長右衛門（  
38歳）という人物が信濃屋お  
（14歳）を伴つて人坂へ行く途中  
桂川河畔で殺害された事件が素材  
なったと今ではされている。この  
件を最初に脚色したとされる「お  
つ徳兵衛曾根崎模様」は、「曾根  
心中」（近松門左衛門）のお初徳  
衛の筋にお半長石衛門の心中を絡  
せ、安永5年までに淨瑠璃や歌舞  
で何度か上演されたらしく、その  
も数々の書き換え狂言が作られた。

た幸助は、お半長右衛門の行方を尋ねる。呆気に取られた番頭は、ぶつと吹き出し、あれは淨瑠璃の中の話ですがな、2人は疾うの昔に死んでますと言われて、それでも本当の話だと依然思い込んでいた幸助は、えらいことした！ 違かつた！ 汽車で來たらよかつたのに、と後悔するところでオチになる。

この落語は明治初期のものらしく、淀川の京都―大阪間に外輪蒸氣船は走っていたが、まだ淀川三十石船もあつた頃のお話だ。

の上に立って回るのを体验でき、撮影することもできるが、2月から始まつた新型コロナウイルスで今は営業時間を短縮し（13～17時）、時にイベントが入っている（月曜定休）。

「道頓堀ミュージアム並木座」は大阪市中央区道頓堀1-1-6 Y'sビア道頓堀並木座ビル1階。料金は、大人600円、子ども（小学生以下）300円（ともに税込み）。

京都を舞台にした  
世話物

劇場には、戯曲としてのドラマを見せる「ドロメノン」と、劇場そのものを見せて娯しませる「シアトロ」——という二つの機能がある。今まで述べてきたような回り舞台やセリのような劇場の面白さはシアトロンとしての機能に因るものだが、もち

京の呉服店「帯屋」の主人、長右衛門は、隠居した繁翁の後妻とその連れ子に、さんざん嫌がらせを受けている。その長右衛門（38歳）と情を通じた信濃屋お半は隣家の娘で、まだ14歳。ふとした成り行きから身重の体となる。お半との過ちを後悔して、貞淑な妻に心から詫び、疲れれる。

この話のパロディーとしては、上方落語の「胴乱の幸助」がめっぽう面白い。



道頓堀五座（摺津名所図会）【資料提供：国立国会図書館デジタルコレクション】



由緒あったのは中座で、今の人気俳優の片岡仁左衛門が初舞台を踏んだのも中座だった。劇場が閉鎖された後も建物は残り、使い道が議論されていていたのに、平成14年9月9日未明、ガス爆発による炎上で焼失。

由緒あつたのは中座で、今の人気俳

衝撃の最期を遂げた。

衝撃の最期を遂げた。  
中座の格式が高かつたことは、江戸時代の西日本における芝居小屋ランキングを見るに、一位が中之芝居（中座）、二位が角之芝居（角座）、三位が四条南之芝居（南座）などなつていてことからも分かる。

が、それでも了供歌舞伎が上演される小学校の体育館に、破風の屋根などはひとまず備え付けられていた。日本の舞台機構は、18世紀中頃、道頓堀で大きな変化を遂げる。それまでは聴覚重視の舞台芸術であったのが、視覚を縦横に取り込んだ舞台

村座にも移され、明治以降は西洋の劇場にも影響を与えるようになり、鉄道のターンテーブルなどにも採用されて日本に逆輸入された。

そんな舞台機構の魅力を体感させる「道頓堀ミュージアム並木座」が道頓堀の南岸に昨年開館した。回り

へと変貌していく。  
たとえば歌舞伎の舞台にみる「回り舞台」は宝曆8年(1758)角の芝居(のちの角座)で上演された『三十六石船始』に始まるとされる。この芝居が上演された際、舞台全体に船を回す仕掛けが求められた。独楽まわしにヒントを得た作者の並木正三は舞台を丸い盆に替え、独樂のようにも心棒をつけて、舞台の下を深く広く掘り下げ、心棒を奈落へ通して回す

舞台を発明した並木正三に因む名で、不動産業務に携わる山根秀宣社長は、2002年に道頓堀の歴史を伝えるサイトを開設し、2017年に同ミュージアムの物件を取得。重要無形文化財である旧金毘羅大芝居「金丸座」(香川県仲多度郡)をイメー  
ジに設計を始め(金丸座は天保年間の道頓堀・大西の芝居、のちの浪花座をモデルとして建てられた)、私  
も監修者として関わっている。

ようにした。その後まもなく、今口のようすに舞台の床板を丸く切りぬき、舞台そのものを奈落で回すようになった。この舞台中央がクルリと回つて場面転換する「回り舞台」の発明は、舞台場面の転換を速めたのみならず、観客の目前で装置を回すことにより、異なる二つの場面の状況を交互に見せる演出を可能にした。回り舞台は、寛政5年（1793）には江戸・中

通路には歌舞伎や文楽の歴史を解説したパネルが並び、パンフレットに記載されているQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、ミュージアムのオリジナルキャラクター「文七くん」が解説しながら案内してくれる仕掛けとなっている。